



「歪んだ人格では能力が高くても結果は間違ったものになる」(稻盛) 「誠実に、正直に、言行一致」の対応をしてください

7月27日、暑い中、多くの参加者を得て日本航空本社前行動を行いました。JAL 不当解雇撤回国民共闘として、多くの方から寄せられた署名を提出し不当解雇撤回を訴えるべく、日航との面談を申し入れましたが、今回も日航は拒否。要請団は、対応に出た受付担当に「会議室を用意し対応すること」を申し入れ、担当者は上司に伝える旨返答しました。また当日要請行動においては、先の7月4日、千葉にて開催された「日本航空の労働者を励ます集い」を踏まえ、本原千葉県労連事務局長より、不当回顧撤回の申し入れと合わせ、集会宣言が日航に手渡されました。以下、当日行った訴え等を紹介します。

不当解雇に「慈悲や利他の心」などはない 糸谷共同代表（全国港湾委員長）の訴え

年齢基準や病気を理由の解雇。いつ我が身にふりかかってくるかわかりません。誰もがこのような目に遭うかもしれない



解雇自由の社会など働く者の代表として許すことはできません。

今回の震災で港湾は、東北だけでなく茨城、千葉の港も大変な被害をうけました。しかし、同業他社の助けをかりて、雇用だけは頑張って守っています。それを、こんな立派な社屋を構え

るJAL でできない訳がありません。

稻盛さんは雑誌の対談で、経営者の人格が何より大切と述べ「リーダーに必要なのは能力より人格だ。リーダーの人格がゆがんでいたりよこしまなものであれば、どんなに能力が高くても結果は間違ったものになる」、「まず誠実さ、正直さ、言行一致」だと言っています。そして、「素晴らしい人格をもっているといわれるような人は、その考えの中に慈悲の心や利他の心がある」とも言っています。稻盛さん！一体この解雇のどこに慈悲や利他の心があるのですか。不当解雇して生活を踏みにじり、恥ずかしくないのですか。これで経営がうまくいっていると言えるのですか。あなたが立派な経営をしたいと言うのなら、あなたが立派な人格を持たないとできません！

あきらめません！必ず勝って大空に戻ります 客乗原告 氏家さんの訴え

定年まであと4年、穏やかに迎えたいと思っていましたが、その夢は、解雇によって打ち碎かれました。5月には、多くの仲間が苦渋の決断を迫られ泣く泣く辞めていきました。10月からの退職強要ともいえる面談の中で、「仕事を続け JAL の

伝統を後輩達に伝えたい」という思いを伝えましたが、一回りも若い管理職に「ご心配なく、それは私達がやりますから」と言い放たれた屈辱は今も忘れません。

安全アドバイザリーグループからの提言の中でも、「安全の層を薄くすることでコスト削減を図ってはならない」ことやベテラン社員の技量やノウハウの継承の大切さが述べられています。しかし今のJALには「安全を最優先する」という貫った芯が通っていないのです。

再び大空に戻ることを決してあきらめません。その日が来るまで、頑張ります！

ルールも守らない会社が、なんで世界一？ 客乗原告 央戸さんの訴え

私達は毎日、元気に明るく活動しています。私達には辞めさせられるようなことは一切していません。コンプライアンスと言いながら、監視ファイル事件で断罪され、罰せられた人達には職が与えられ、まじめに働いてきた私達が職を奪われることに納得がいきません。

多くの方々のご支援を頂き、私達は運動に確信を持っています。社長宛ての署名は17万筆を超え、政府宛て署名も17万筆以上集まっています。こんなに心強いことはありません。

片山管財人に毎月 580 万円もの報酬を支払い、他の管財人たちの分を含めると 4 億円近くにもなっています。支払い能力はあったのです。その管財人による争議権確立への不当労働行為については、8月3日に都労委より判断が出されます。

また、ILO に申し立てを行い世界的にも支援を広げています。世界基準のルールも守らないような会社が、なんで世界



一を目指すなどといえるのでしょうか。

今からでも遅くはありません。安心・安全のJALの再生のために、一日も早く私達を職場に戻す決断を行ってください！

稻盛会長は潔く証人に応じて堂々と証言を 乗員原告 谷口さんの訴え

ソニーは、多賀城市の事業所を今回の震災を理由に閉鎖しようとしています。金錢的な被害は全て保険で保障されるのに、です。ソニーの会長の年収は8億円。にもかかわらず 280 人の正社員を強制的に全国配転し、期間工の 150 人全員は雇い止めです。会長が自分の年収の半分も差し出せば、150 人の契約社員は雇い止めせずに済むはずです。それと同じことがこの会社でもやっているのです。

稻盛会長の書いた本は立派で美しい言葉が並んでいますが、気分が悪くなるのです。それは、言っていることやっていることが全く違うからです。「誠実さ」とか「土俵の真ん中で勝負する」と言うなら、潔く証人尋問に応じて裁判所で堂々と証言しなさい！また、片山管財人も年収 1 億円だそうですが、その半分くらいで私達 10 人くらいは雇えます。私達は絶対に負けません！ 皆様、ご支援よろしくお願ひします。



不当解雇撤回・原職復帰、空の安全のために全力でたたかう

7.04「日本航空の労働者を励ます集い」集会宣言

千葉県労連本原事務局長が不当解雇撤回の要請とともに提出した 7 月 4 日の日本航空の労働者を励ます集いで採択された集会宣言の全文を紹介します。

集会宣言

日本航空は 2010 年 12 月 31 日、パイロット・客室乗務員あわせて 165 名もの大量の整理解雇を強行した。これに対して 2011 年 1 月、146 名の被解雇者が原告となり(その後 2 名が追加提訴)、この解雇は整理解雇の 4 要件を充たしておらず無効であるとして、解雇撤回・原職復帰を求めて東京地裁に提訴した。この訴訟も、まもなく証人調べに入る段階を迎えている。

日本航空の当初の人員削減目標は 1500 名であったのに対して 1733 名もの方々が希望退職に応じ、目標を 200 名以上も上回っていた。また、経営状況を端的に示すといわれる営業利益も目標 641 億円を 1200 億円以上も上回る 1884 億円を達成している。経営トップの稻盛会長も、2 月 8 日の記者会見において「整理解雇した 160 人を残すことが経営上不可能かと言えばそうではない。」と述べている。このように、経営者自らが認めざるを得なかつたとおり、この整理解雇が必要なかつたことは明らかである。労働者にこれほどの犠牲を強い一方で、経営破たんの真の原因、すなわち日米貿易摩擦解消の圧力による大型機の大量購入、燃料税や着陸料などの高い公租公課、不採算地方空港の乱造、経営者らの無責任な放漫経営、そして日本航空を「骨までしゃぶり尽くした」政・財・官の深い癪着の構造などは、何一つ改善されていない。そして、今回のこの大量解雇の真の狙いの一つが、経営破たんにかこつけて日本航空労働者の、そして航空はじめ日本中の労働者全体の労働組合活動の弱体化をねらった不当労働行為であることは明白である。いうまでもなく、経験を積み熟達したパイロットや客室乗務員を大量に航空の職場から排除することは、航空企業にとって最も大切な「空の安全」を著しく脅かすものであり、その観点からも決して見過ごすことはできない。さらには、職場に残った労働者達も、利益優先の人減らしと労働強化により、かつてなかつた程の過酷な労働を強いられている。

ここ千葉県は成田空港を擁し、解雇された労働者とその家族、そして航空関係の職場で働く数多くの仲間達がいる。本日、この集会に結集した私達は、日本航空の解雇事件裁判で勝利し、解雇された仲間達の一日も早い原職復帰を勝ち取るとともに、「空の安全と安心」を確立するために、全力でたたかう。そして、労働者・国民が人としての尊厳を大切にされ、人間らしく安心して働ける社会を実現するために、思いを同じくする仲間達とも手を携えて、総力をあげて取り組む。

以上、宣言する。